

クローバーグループ連携事業『俳句』：ちやまを詠む…

第十三回 令和五年度 春夏（三月～八月）の部 入賞作品

テーマ 『勝山の四季折々』を詠む

選者

勝山市俳句協会 会長  
勝山市俳句協会 理事

石畝 千恵子  
はばた みち恵

特選 夏空にまばゆい城の龍遊ぶ 滋賀県近江八幡市 伴 公恵

選評

お城の龍の彫り物と恐竜の町「勝山」が表現された句で、空を大きくうねるようだ。大きさと色と動きがミックスされた美しい句です。市街より高いところにあり勝山のシンボルの一つになっている。

特選 緑苔は屍しかばねに掛ける僧衣かな 神奈川県横須賀市 鈴木 邦義

選評

平泉寺の歴史を踏まえた重厚な一句になりました。天台の派手目の僧衣がまるで苔の色のような。火をかけられた平泉寺は多くの僧兵が亡くなった。緑の苔の下には無念が渦巻いている。鎮魂の苔とその静けさ。作者渾身の一句です。

特選 ききましたこわいはなしをとうじんぼう 福井県福井市 井土 虹

選評

これは柱状節理の東尋坊の吟行句ではなくて、その名前の由来をきいたのですね・酔わせ突き落としたなんて怖いことです。順序を入れ替えて句にしたところに臨場感ができました。この夢を見ないことを祈ります。

入選 僧兵や祈りの跡に桜咲く 三重県四日市市 谷口 禎彬

入選 つばめたち高く運ぶね泥や藁 福井県福井市 横山 葉子

入選 御手洗みたらしで春のまぼろし神と逢う 石川県能美市 犬丸 恵美子

入選 苔踏みでその足先は戦国時代 東京都葛飾区 穂積 ちづ

入選 苔の波何を忘れに來たのやら 大阪府堺市 川岸 祐介

入選 神杉に蝉千年を繰り返す 奈良県生駒市 佐々木 依子

入選 は順不同